

中学校教科等部会 活動報告

【英語科部会】 校長 三賀山 宏
英語部会では、学力向上を図る授業づくりをテーマにし、9月26日に方城中学校において公開授業・研究協議・講義を実施しました。公開授業を通して授業の具体についての提案を、協議を通して授業の意味づけ・価値付けを、そして講義を通して、英語科の授業づくりの基礎・基本、今後の方向性についての共通理解を図りました。当日は、会員21名、東鷹高等学校から3名の参加があり、中・高連携した英語教育についての第一歩が踏み出せました。

【道徳部会】 校長 白石 毅
・総会及び研修会（6月）
組織作り、年間計画作成、講話
・公開授業（10月）香春中 鷲尾 佳子 教諭
主題名「集団生活の向上」【内容項目4-(4)】
資料名「みんなで跳んだ」（角川つばさ文庫）
・心に響く道徳の時間実践事例集【第8集】
内容項目4：[主として集団や社会との
かかわりに関すること]の作成
※1月10日原稿締め切り→修正、編集等を
経て2月末に発行予定、各学校等配布予定)

【総合的な学習の時間部会】 校長 白石 俊幸
本年度の研究テーマ
「実践のあり方の研究」
6/24 田川地区総合部会…組織、役割分担
6/26 筑豊地区役員会・県役員会
11/21 平成26年度実践報告会・講演会
(香春町民センター 於)
県役員会

【特別活動部会】 校長 重藤 公暢
・総会（6月 赤中学校）
組織づくり、年間活動計画の作成・確認
各学校での指導案収集について
・第19回福岡県中学校特別活動研究大会参加
(11月 福岡市教育センター)
・実践研究及び紀要執筆（9月～1月）
「仲間とともに切り拓いていく進路学習の取り組み」
～人間関係づくりの視点を取り入れた指導の工夫を通して～
池尻中学校 池上 敏文 教諭
・研究紀要の内容審議

教科・領域	職名	研究員名	学校名
国語（書写）	教諭	村井 賢子	香春中
社会	教諭	村上 裕一	香春中
数学	教諭	山本 秀信	香春中
理科	教諭	毛利 宗史朗	赤池中
音楽	教諭	本田 智子	川崎中
美術	教諭	其上 利幸	添田中

教科・領域	職名	研究員名	学校名
保健体育	教諭	佐々木 佳子	大任中
技術・家庭	主幹教諭	田中 朋美	香春中
外国語	教諭	前田 雅仁	添田中
道徳	教諭	鷲尾 佳子	香春中
総合的な学習	教諭	青柳 美香	金田中
特別活動	教諭	池上 敏文	池尻中

平成25年度「ふくおか教育論文」入賞者

- ◆佳作賞 香春町立香春中学校 養護教諭 出口 由香 先生
「望ましい生活習慣を身につけ、健康な生活を実践する子どもの育成」
- ◆奨励賞 添田町立添田小学校 教諭 浜島 秀嗣 先生
「根拠を持って考え、表現する力を育てる算数科学習指導」

平成26年度 田川郡教育研究所員

所長 平野 志津夫 書記 有田 真理子
副所長兼幹事 小峠 英人(中津原小学校 校長) 副所長 縄田 哲也(川崎中学校 校長)
主任指導員 金子 祥二(今任小学校 教頭)
指導員 梅木 雷太(金田小学校 教諭) 指導員 岩川 秀治(赤中学校 主幹教諭)
指導員 高瀬 大輔(川崎小学校 教諭) 指導員 安藤 志保美(大任中学校 主幹教諭)

田川郡教育研究所

所報 第109号

発行日 平成27年3月3日
発行所 田川郡教育研究所
<http://www.tagawa-lab.sakura.ne.jp/>

田川郡教育研究所 所長 平野 志津夫

本年度、田川郡教育研究所主催の筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会を福智町で開催致しましたところ、夏季休業中とはいえご多用の中を多くの教育関係者の参加をいただき充実した研修会となりました。皆様のご協力に対しまして、心よりお礼を申し上げます。

さて、各学校では児童・生徒の思考力・判断力・表現力を育み、確かな学力の定着と向上を図るため、実態に応じた様々な取り組みを進めておられることと思います。本研究所では、今後先生方が自信を持って実践できるよう、効果のある取り組みの情報収集と蓄積、さらに情報提供や情報交換がいつでもできる環境を整えていきたいと考えております。

また、教職員の世代交代に伴い、各教育関係機関や学校がこれまで以上に教職員の人材育成に取り組む必要があることから、当研究所においても組織的・計画的にこれを推進し、効果的でより実践的な研修をこれからも計画・実施して参りたいと考えておりますので、今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

平成26年度の田川郡教育研究所の主な事業

1 教育研究センターとしての事業

- (1) 情報提供
- (2) 教育資料の収集と資料活用の奨励
- (3) 研修会の計画・実施
- (4) 小・中学校教科等部会の研究奨励と支援
- (5) 田川郡小・中学校人材育成プログラムに関わる研修会への支援と助成
- (6) 研究物等の発行
 - ①教職員名簿（5月配布）
 - ②所報（第108号：7月配布、109号：3月配布）
 - ③研究紀要（第54集：3月にCDで配布）

2 研究事業

- ◎ 研究主題「学習指導と評価に関する研究」

3 研修事業

- (1) 田川郡教育研究所主催「筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会」の実施
8月20日（水） 於 福智町地域交流センター
- (2) 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会への参加
11月19日（水） 於 福岡県教育センター
- (3) 研修員研修会
6月27日、10月9日、12月8日 於 田川総合庁舎 ※ 以後随時
- (4) 研究員研修会
7月4日（金） 於 田川総合庁舎
- (5) 研究所員研修会 ※ 随時

4 庶務事業

- (1) 教育論文の募集・審査・表彰
- (2) 研究所理事研修会の実施（年2回）
- (3) 総会の実施

研究の概要

1 研究主題

「学習指導と評価に関する研究」（4年次）

～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～

2 主題の意味

(1) 学習指導とは

学習指導とは学習者の学習を援助し促進する教師の営みであり、学習者の知識・理解・技能・思考・表現等の能力、及び学習意欲・態度をより高次のものへと引き上げる計画的・意図的な教育活動である。今回の学習指導要領の改訂では子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動をするとともに、その際言語活動を充実させて特に思考力・判断力・表現力を育成することが重視されている。このことから本主題の学習指導とは、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけさせるとともに、言語活動を通してその知識及び技能を活用して思考力・判断力・表現力を高めさせる授業における教師の教育活動を指す。

(2) 評価とは

評価は、子どもの学習状況を知り、学習目標の設定や指導方法の工夫などの改善に役立てるためのデータを得る活動である。今回の学習指導要領の改訂により、評価の観点が変更され、「技能・表現」が「技能」となり、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となった。これは、言語活動を通じ知識・理解を活用して思考力、判断力、表現力を高める学習指導が重視された結果に他ならない。新しく設定された観点である「技能」は、教科内容としての表現力をこれまで通り評価することになる。一方、「思考・判断・表現」で示された表現は、これまでの「技能・表現」で示されていた表現とは異なり、「思考・判断」したことの過程や内容がわかるように言語で表現するものである。そのため、学習指導において言語活動が重視されているわけである。よってこれからの評価は、思考力、判断力、表現力を評価することが重視されることとなる。よって本主題で言うところの評価も思考力、判断力、表現力を第一義に生徒の能力を見取り、計画・指導・評価・改善を有機的に結びつけることを指す。

(3) 学習指導と評価に関する研究とは

思考力・判断力・表現力を育むための、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する学習指導のあり方、及びそれらの力が身に付いたかどうかを見取る新しい評価について、各教科等部会ごとに教育実践研究を行い、各教科の特性及び田川郡の実態に応じた指導と評価のあり方について究明することを指す。

3 主題設定の理由

(1) 社会の要請と教育改革の動向から

知識基盤、グローバル社会化など社会が急速に変化し価値観が多様化する中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考に基づき判断することや異なる文化や歴史や立場にある人々と尊重し合って共存していくことなど、変化に対応し問題をよりよく解決する能力が一層求められている。

しかし、OECDのPIISA調査、全国学力・学習状況調査など国内外の各種学力調査結果によると、我が国の子どもたちの課題として、思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていないことがあげられている。

これらの状況を踏まえ、中央教育審議会で審議・答申が重ねて行われた。そして教育基本法、学校教育法が改正される中、小学校において平成23年度から、中学校においては24年度から新学習指導要領が完全実施された。新学習指導要領は、子どもたちの現状に鑑み「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」を育むという理念を中核にすえたものであり、とりわけ「確かな学力」については、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、知識技能を活用した思考力・判断力・表現力を育成しながら学習に取り組む意欲を養うことを重視するという、バランスのとれた学力の育成をめざしたものになっている。特に改訂にあたって充実すべき重要事項の第1番目として「言語活動の充実」があげられ、各教科を貫く改善の視点として示された。

中学校教科等部会 活動報告

【国語科部会】 校長 白石 毅
・総会及び研修会
組織作り、年間計画作成、講話（5月）
演題「社会生活に生きて働くことばの力を育む
国語科学習指導の創造」
・福岡県中学校国語科研究大会開催(10/28)
田川市・郡合同開催 県教育委員会後援
【基調提案・公開授業・記念講演】
2年 書くこと「紙上討論会を開こう」 他
講演「中学校国語科の新しい授業づくり」
講師 文部科学省教科調査官 富山 哲也 氏

【社会科部会】 校長 白石 俊幸
本年度の研究テーマ
「思考力、判断力、表現力を高める
社会科指導の工夫」
研究員・報告者
村上 裕一（香春中学校）
平成26年度研究授業 10月15日（水）
授業者 玉井正次郎（鷹峰中）
単元名 「幕府政治の改革と農村の変化」

【数学科部会】 校長 縄田 哲也
・本年度の研究主題
確かな学力を育む数学科指導法の研究
・第1回部会（6月20日）
研究テーマの確認、今年度の組織決め、
年間活動計画、活動内容の確認
・第2回部会（10月17日）
公開授業（方城中学校）稲田浩 主幹教諭
第3学年「2乗に比例する関数」
・その他
県数学科研究発表会等参加、年間のまとめ

【理科部会】 校長 坂本 和紀
○組織づくり、研修計画作成（6月）
○公開授業（10月）
・会場 添田中学校
・授業者 真武亮一 先生
・単元名 「生命を維持するはたらき」
○実験講習会（12月）
・会場 方城中学校
・講師 小泉憲司 先生
・内容 光（偏向、カメラ）、磁界など

【音楽科部会】 校長 友松 秀樹
○研究テーマに沿った組織・活動計画策定
○授業研修会の参観及び協議
・添田中；合唱曲「絆」表現の工夫
・方城中；鑑賞 ゴスペル「SOULMatics」
○各校合唱コンクールへの協力体制づくり
○公開授業研の実施・協議（添田中・方城中）
○中音研各行事への参加（中音研九州大会・
中音研県大会・リコーダーコンテスト・創
作コンクール）
○教育研究所研究紀要の原稿審議及び交流

【美術科部会】 校長 村上 きぬよ
・研究テーマに沿った組織・活動計画策定
・授業研修会の参観及び協議
11月 添田中学校 授業者 其上利幸
・福岡県中学校美術教育研究大会参加
11月10日 福岡市立田隈中学校
・教育研究所研究紀要の原稿審議及び交流
・福岡県中学校美術展の作品出品
・来年度県発表へ向けての打合わせ・審議
テーマ「豊かな情操を養う
美術科学習指導法の研究」

【保健体育科部会】 校長 高橋 孝徳
・6月20日（金）保体部会
組織づくりと年間計画の作成
県保体研（筑豊地区担当）について
・10月24日（金）県保体研
会場：飯塚市立小中一貫校額田校
・11月27日（木）公開授業
授業者：鷹峰中学校 金川 稔 教諭
単元：体育分野「バレーボール」
・3月 保体部会
本年度体力向上プランの集約

【技術・家庭科部会】 校長 重藤 公暢
・総会（6月 赤中学校）
組織づくり、年間活動計画の作成・確認
・公開授業研修会（9月 方城中学校）
「木製品の製作」技術科 池田惣一 教諭
・九州地区中学校技術・家庭科教育研究大会
（11月 福岡市民会館、筑前地区各中学校）
第4分科会 家庭科（A 家族・家庭）
実践発表 香春中学校 田中朋美 教諭
・研究紀要執筆（12月）
香春中学校 田中朋美 教諭

小学校教科等部会 活動報告

【体育科部会】 校長 石堂 昌彦
 ○ 第1回部会 6月11日（糸田小）
 組織づくりと年間計画及び4部会の情報交換
 ○ 第2回部会 7月22日（糸田小）
 体づくり運動実技講習及び実践レポートを基にした4部会の実践交流
 ○ 第3回部会 11月14日（市場小）
 公開授業研 市場小 鍋藤 秀晃 教諭
 第5学年ボール運動「タグラグビー」
 ○ 第4回部会 1月28日（糸田小）
 4部会の実践交流と反省（アンケート実施）

【道徳部会】 校長 小峠 英人
 ○ 第1回部会 6月11日（中津原小）
 組織作りと道徳の授業について
 ○ 第2回部会 7月22日（中津原小）
 私たちの道徳・道徳の教科化について
 講師 筑豊教育事務所 種具朋一郎 先生
 ○ 研究発表会参加（一部）
 「糸島市立波多江小学校」
 ○ 第三回部会 1月28日（中津原小）
 個人研究のまとめの交流
 道徳の時間の発問について

【外国語活動部会】 校長 森 隆子
 本部会では、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を受け、最新の情報や授業の実践及び小・中学校の接続について、以下の研修を行いました。
 ①組織づくりと活動計画作成及び情報交換
 ②講師研修会：赤村 ALT マルチネス先生
 ③授業研修会：糸田小学校 岸野未来先生
 福岡県教育センター 大田亜紀指導主事
 ④講師研修会：方城中学校井上修一教頭先生
 まとめと次年度への課題整理

【特別活動部会】 校長 井上 憲治
 ・組織作りと活動計画・内容の確認
 ・低・高学年部会ごとの情報交換と交流
 ・授業研修会（川崎東小 小森康志先生）
 ・まとめ及び次年度への課題整理
 今年度は、7月24日（木）福智町立市場小学校で第41回福岡県特別活動夏季研修会を開催することができ、県下から約150名の参加者を迎え、一つ一つの研修にみんなの熱い思いが感じられ盛会に終わることができました。

【特別支援教育部会】 校長 吉松 信吾
 ○組織づくり、年間活動計画作成及び情報交換
 ○講師研修会
 講師：嘉徳特別支援学校 水上さとみ 先生
 講話：「特別支援教育の具体的取組」
 演習：事例検討「一緒に考えよう」
 事例A：一斉指導では支持理解が難しいAさんへの支援。
 事例B：暴力をふるったり、暴言をはいたり、友だちとトラブルになりやすいFさんに対する支援。
 ○指導方法、支援についての実践交流及び年間の反省
 交流内容：具体的な教材教具の紹介、具体的実践、校内推進体制。

教科・領域	職名	研究員名	学校名
国語	教諭	有竹 真吾	大任小
社会	教諭	山本 公平	香春小
算数	教諭	奥 拓也	津野小
理科	主幹教諭	馬場 利文	弁城小
生活・総合	教諭	永井 陽子	糸田小
音楽	教諭	太田 優子	伊方小
図画工作	教諭	香川 ゆかり	川崎東小
家庭	教諭	西島 雅美	川崎小
体育	教諭	鍋藤 秀晃	市場小
道徳	主幹教諭	清瀬 浩一	採銅所小
外国語活動	教諭	山口 大介	勾金小
特別活動	教諭	大久保 利詔	川崎東小

以上のようなことから、各教室において展開される学習指導においては、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成すべく言語活動を充実させるとともに、それらが確実に身に付いたかどうかを見取る学習評価の充実が図られなければならない。

(2) 田川郡の児童生徒を取り巻く状況から
 平成23年5月、故山本作兵衛氏の描いた炭坑記録画がユネスコの世界記憶遺産に登録されたことは、田川に明るいニュースとなった。しかし、エネルギー革命による炭鉱閉山の嵐から半世紀経とうとしているが、その時の生活環境の激変は今でも田川の児童生徒に多くの面で影響を及ぼしている。
 本郡の状況を見ると、経済的に厳しい状況にある家庭が依然として多いこと、基本的な生活習慣が定着しにくいこと、将来への肯定的な展望をもちにくく不登校が増えていることなどの課題が挙げられ、依然、子どもたちの学力の向上と進路の保障が大きな課題とされている。
 全国学力・学習状況調査の結果を見ると、徐々に改善は見られるものの依然全国平均よりもかなり低い数値であり、特に思考力・判断力・表現力を問うB問題でポイント差は顕著である。
 したがって、子どもたちの学力向上と進路保障を実現するためには、基礎・基本となる知識技能を確実に定着させるとともに、知識技能を活用する思考力・判断力・表現力を高める教育実践研究が喫緊の課題である。

(3) これまでの研究の経過から

年 度	研 究 主 題
平成10～11年度	「生きる力」をはぐくむ授業づくり
平成12～13年度	「生きる力」を育てる総合的な学習
平成14年度	「生きる力」を育てる教育課程の展開 ～評価活動の充実をとおして～
平成15～17年度	学力実態及び学力向上の取組に関する調査・研究 ～学力検査結果の分析と実践事例の収集をとおして～
平成18～22年度	学力向上の取り組みに関する研究 ～生きる力を身につけた児童生徒の育成～
平成23年度～	学習指導と評価に関する研究 ～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～

4 研究の目標
 各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動において、新学習指導要領がめざす確かな学力を身につけるための学習指導と評価のあり方について究明する。

5 研究の内容
 (1) 各教科・領域等の学力や児童生徒の実態を分析する。
 (2) 各教科・領域等における主題を設定する。
 (3) 各教科・領域等における主題を達成すべき学習指導と評価方法を明らかにする。
 (4) 各教科・領域等において主題に基づいた研究実践を行う。
 (5) 各教科・領域等において実践事例としてまとめ、成果と課題を明らかにする。

6 研究の計画
【4年次】
 ア 研究主題・副主題の検討
 イ 主題に基づく理論研究
 ウ 実践研究（各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動）
 ◇授業計画 ◇検証授業 ◇考察・まとめ
 エ 研究のまとめ
 オ 研究紀要の作成

平成26年度 教育実践発表者の紹介

◇平成26年度 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会
 福智町立上野小学校 教諭 山田 侑子 先生
 『論理的に構成する力を培う第三学年国語科学習指導の研究』
 ～図を活用した交流活動の工夫を通して～

◇第43回 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会
 福智町立赤池中学校 教諭 浅香 結美子 先生
 『特別支援学級に在籍する生徒Aが自ら協力できる交流及び共同学習』
 ～特別支援学級と交流学級の技術・家庭科（家庭分野）を関連づけた指導を通して～

再始動！ 研修員研修制度

田川郡教育研究所には、過去にも研究所で1年間の長期研修を行うという研修制度がありました。その後、附属小中学校や県教育センターの長期研修員を田川郡からも多く送り出せるようになったこともあり、研究所での研修員制度は中断をしていました。しかし、今後急速な教員の世代交代が進む中、一人でも多く研修・研究方面で若年教員を牽引できる人材を輩出しておくことが田川の課題となっています。この現状を受け、本年度より研修員研修制度を再開しました。

本年度の募集に対しては小中学校各校長会より推薦をいただき、下記の先生方が研修員に選出されました。6月27日の第1回研修員研修会をスタートに、最終論文作成に向け精進されています。研修員の先生方への応援と、来年度以降の多くの申し込みをよろしくお願いいたします。

《平成26年度 研修生》

糸田小学校 教諭 國本 裕司 先生、市場小学校 教諭 大久保 香世子 先生
池尻中学校 教諭 上田 苑加 先生、赤池中学校 教諭 毛利 宗史朗 先生

食育だより

糸田小学校 栄養教諭 安倍 ちか

◆福岡県学校給食料理コンクールに参加！◆

平成26年10月23日（木）に福岡県学校給食総合センター（筑紫野市）において、福岡県の学校給食料理コンクールが開催されました。

本コンクールは、学校給食の食事内容の充実と多様化を目指して、地域や学校の特色を生かした新しいメニューの開発、調理技術の向上を図ることを目的として実施されています。田川郡からは、香春町学校給食センターの調理従事員山本由美子さんが代表で出場しました。

香春町の地場産物であるかぶや柿を活用した「かぶと柿のサラダ」やチキンソテーに栄養豊富な大豆を使ったトマトソースで味付けするなど創意工夫された新メニューを開発し、健闘されました。田川郡では毎年、福岡県の料理コンクールに参加し、調理従事員の調理技術の研鑽と給食の食事内容の向上に取り組んでいます。

□■□ 全国学校給食週間の取組 □■□

1月24日から1月30日までは、全国学校給食週間でした。戦後の食糧難の時代に空腹を満たし栄養補給が主な目的だった学校給食も、現在では、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるための「食」を学ぶ役割へと変わってきています。

日ごろ何気なく食べている学校給食ですが、この給食週間は、自分自身の食生活や健康について振り返るよい機会になったことと思います。

養護だより

香春中学校 養護教諭 出口 由香

田川郡学校保健会では11月26日に視察研修を実施しました。

午前中は「C&S音楽学院」を訪問し、毛利直之学院長より講話をしていただき、授業の様子を参観させていただきました。

「C&S音楽学院」は2001年4月に開校され、「高校卒業資格が得られる音楽学校」として注目を集め、福岡県教育委員会から指定を受けた教育施設です。入学してくる生徒の大半が不登校を経験しているそうで、毛利学院長の「音楽を通して子どもたち自身に困難を乗り越える力をつけていきたい。」「夢をもつことは、諦めない大きな力になる。」という言葉が印象的で、大変貴重なお話をお聞きすることができました。

午後からは「公益財団法人 福岡県学校給食会」を訪問しました。学校給食用物資の安全性や衛生管理について詳しく説明していただき、学校給食がいかに子どもたちの健全な食生活に大きな役割を果たしているのか、再確認することができました。また、安心して安全な物資が保管されている基幹倉庫の見学や、今後の指導に活用できるような食育に関する様々な教材等も見せていただきました。

午前午後ともに大変有意義で充実した研修ができました。

小学校教科等部会 活動報告

【国語科部会】 校長 渡邊 伴子

- ・講師研修会
「考える国語の授業づくり（物語文）」
- ・講師研修会
「考える国語の授業づくり（説明文）」
筑豊教育事務所 中山 博紀 指導主事
- ・公開授業研修会
上野小学校 中原 正文 先生
- ・福岡県児童文集田川郡審査
- ・福岡県児童書写田川郡審査

【社会科部会】 校長 高瀬 美智也

- 第一回 平成26年6月1日（水）
組織作り及び年間計画と交流(学年/全体交流)
- 第二回 平成26年7月22日（水）
一学期実践内容の交流及び二学期に実践する学習指導案作成(学年/全体交流)
- 第三回 平成26年12月5日（金）
授業研究及び協議 香春小学校6年生 5校時
単元名 「暮らしの中の政治～オピニオン～」
授業者 伊方小学校 主幹教諭 山本徳和
- 第四回 平成27年1月28日（水）
実践の成果と課題の交流(学年/全体)

【算数科部会】 校長 太田 亮一

- 組織作りと活動計画作成及び今年度の研究方向の決定
 - ・活用能力を高めるための授業構成
- 指導案作成と授業実践
 - ・各学年ごとに指導案を作成し実践
- 授業実践の報告
 - ・授業を実施した結果の課題交流
 - ・来年度に向けての改善案作成
- 教師の授業改善につながるミニ問題
 - ・子どもの立場に立って教師が問題を解く

【理科部会】 校長 松村 重治

- ・実践交流、学習指導情報交換
- ・講師招聘「観察・実験講習会」
講師 福岡教育大学名誉教授 中村重太先生
- ・筑豊地区小学校理科研究会研修会への参加
- ・福岡県小学校理科教育研究大会への参加
- ・まとめと次年度の課題整理

【生活科・総合的な学習の時間部会】

校長 中川 真一

- ・組織づくりと活動計画案の作成、情報交換
- ・講師招聘による研修会（演習及び講義）
内容 気づきの質を高める生活科の授業作り
講師 福岡県教育センター
指導主事 中村 健司 先生
- ・公開授業研修会（6年総合的な学習の時間）
授業者 真木小学校 教諭 宮村 歩 先生
単元名 障がいについて学ぼう
- ・本年度の反省とまとめ

【音楽科部会】 校長 城石 俊弘

- ・組織作り及び年間研修計画の作成
- ・講師招聘研修
講師 筑豊教育事務所 岡本浩幸指導主事
内容 講話：音楽科の授業改善のポイント
実技指導：リズム感育成、
リコーダーの指導法
- ・授業研究 福岡県（筑豊地区）小学校音楽教育研究大会参加
- ・実践交流・協議、まとめと反省

【図画工作科部会】 校長 中川 雅彦

- ・組織作りと活動計画作成
- ・実技研修及び作品の相互鑑賞
- ・県小図画工作研究大会参加（筒井小）
- ・県小児童画展田川郡審査（中元寺小）
- ・県小児童画展筑豊地区審査（中間西小）
- ・授業実践の交流と実践集の作成
- ・図画工作科教科書の活用についての研修
講師：福岡教育大学名誉教授
吉井 宏 氏

【家庭科部会】 校長 光井 美登利

- ・組織作りと年間計画
5年部会 6年部会 栄養教諭部会
- ・実技講習会 指導：栄養教諭 鍋藤君江先生
5年生教材「野菜サラダをつくろう」
「家族とほっとタイム」
- ・プランに沿った指導案作成
- ・福岡県・筑豊地区家庭科教育研究大会参加
テーマ「豊かな家庭生活を築く
実践力を育てる家庭科教育」（桂川東小）
- ・授業実践の交流会 本年度のまとめ

研究発表会実施校の紹介



添田町立添田中学校

【実施日】 10月2日

【学校教育目標】

心豊かで逞しく、確かな学力を身につけた、
未来を指向する生徒の育成

平成26年度 添田町教育委員会研究指定・委嘱校

粘り強く学ぼうとする態度を育てる生徒指導の機能を生かした授業方法の研究
～自己決定の場や共感的な人間関係、自己存在感を味わえる活動の具体を位置づけた指導の在り方～

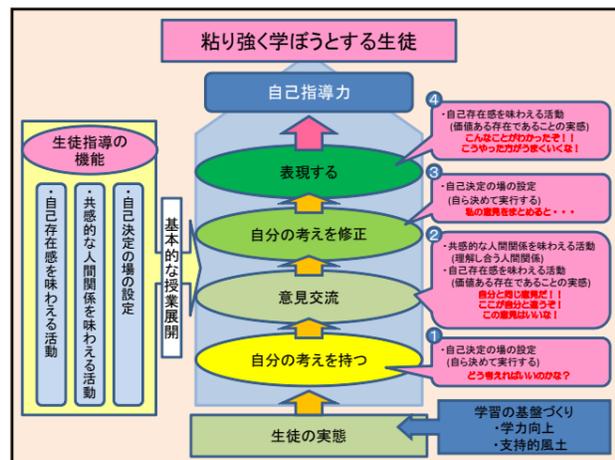
<研究の特色>

生徒指導の機能である「自己存在感を味わえる活動を仕組むこと」「共感的な人間関係を育成すること」「自己決定の場を与えること」を留意点にし、授業の中でそれを生かす活動を仕組めば、生徒自身が自己指導力を高め、粘り強く学ぼうとする態度を育成できるのではないかと考え、以下の2点から検証した。

- 各教科における生徒指導の機能を生かした基本的な授業展開の構築
各教科の学習活動の中に、【自己決定の場】や【共感的な人間関係を味わえる活動】、【自己存在感を味わえる活動】を位置づける。
- 授業の各段階と生徒指導の機能の関係
 - ①自分の考えを持つ段階を位置づけることで、【自己決定の場】とする。
 - ②他の生徒と意見交流をする段階を位置づけることで、【共感的な人間関係を味わえる活動】、【自己存在感を味わえる活動】とする。
 - ③自分の考えを修正する段階を位置づけることで、【自己決定の場】とする。
 - ④表現方法の工夫により成就感、達成感を味わわせ、【自己存在感を味わえる活動】とする。

<成果>

- 「1単位時間ごとのワークシートの開発」や「キーワードをもとにしためあての設定」、「めあてと連動した授業展開の創造並びにまとめとの整合」などの授業における教職員の工夫が進んだ。
- 生徒の発言や意見を板書等に生かしたり、ヒントカードを用意するなどの支援により、生徒は自分の考えを持てるようになり、学習意欲を高め、自己存在感を味わうことができるようになった。
- 他者の意見を聞き、自分の考えを修正することで、失敗してもからかったりせず、励ますような支持的風土が醸成される場面が少しずつ見られるようになった。



1年間の長期研修を終えて

大任町立大任小学校 教諭 有竹 真吾

平成25年度長期派遣研修員として、福岡教育大学附属小倉小学校で研修をさせていただきました。この研修を通して、これまでの自分の教育観、子ども観、授業観を見つめ直す貴重な機会となりました。

特に国語科の研究を通して、教科指導においては、教科の本質的内容を理解し、その本質に迫るための教育研究の在り方を学ばせていただきました。また、附属小倉小学校の先生方の子どもと関わる普段の姿から、自分がこれまで見ていなかった子ども姿を見る目を養っていただきました。さらに、附属小倉小学校で行われるすべての教育活動には意図や目的があり、すべて人への配慮がなされていました。そのことが、普段の授業へと深くつながっていくことを実感させていただきました。

この研修での経験を、これからの教育実践に生かし、子どものためにある教師として、更に自己研鑽と研修に努めてまいります。

このような貴重な研修の機会を与えてくださった関係の皆様方に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

川崎町立川崎中学校 教諭 藤木 俊介

昨年度、福岡県教育センターの産業・情報教育部情報教育班に長期派遣研修員として一年間研修をさせていただきました。今まで日々の忙しさを理由に研究から遠ざかっていた自分にとって、生徒たちが輝く授業づくりをどう実践していくのか一日中365日考えたことは初めての経験でした。研究主題を決めるだけでも指導主事の先生方と話し込み、半年かけて自分の考えを固めまとめていきました。主題研究だけでなく、「福岡教師塾」をはじめ一般研修に参加させていただき、教師としての資質を高めなければいけないと強く感じました。また毎月の研究計画を立てることで効率よく先を見通した研究を行うことや研究記録を作成し反省することで自分を振り返ることができました。この経験をこれからの教育現場で生かしていくことはもちろんですが、さらに自分の実践を積み重ねていながら今後も地道に研修を続けていきたいと思っています。

最後にこのような貴重な研修の機会を与えてくださった関係の皆様方、在籍校の皆様方に心より感謝を申し上げます。

福智町立赤池中学校 教諭 浅香 結美子

昨年度、福岡県教育センターにおいて長期派遣研修員として特別支援教育について一年間の研修を受けました。主題研修では、個別の教育的ニーズのある子どもが意欲的に学習活動に取り組み、学ぶことの満足感や充足感を味わうための交流及び共同学習を研究し、教科担任としてそして特別支援学級の担任として、悩んでいたことを解決するための手立てをつかむことができたのではないかと考えています。

研究以外で大きな財産となったのは、人との出会いです。さまざまな活動を通して知見を広めたり、貴重なお話を聞かせていただいたりすることができました。指導主事の先生方や他の研修生からは、研修終了後も指導・助言をいただいております。

今後は、インクルーシブ教育の推進と充実に向けて、今日的課題としてその取り組みがさらに重要度を増すと考えられます。そのような中で、一年間の研修の成果を発揮し、特別支援教育を推進し、全ての子ども達がより多くの学びを得られるよう取組みたいです。

平成25年度 教育研究所論文応募者

- ◇川崎町立川崎小学校 高瀬 大輔 先生《優良賞》
「自分の考えを筋道立てて表現する子どもを育てる算数科学習指導」
- ◇糸田町立糸田小学校 國本 裕司 先生《佳作賞》
「事柄の順序を考えながら読む力を育てる第1学年国語科 説明的文章を読むことの学習指導」
- ◇福智町立上野小学校 山田 侑子 先生《佳作賞》
「論理的に構成する力を培う第三学年国語科学習指導の研究」
- ◇香春町立勾金小学校 植村 徹也 先生
「豊かな心を育てる道徳学習指導法の研究」
- ◇添田町立落合小学校 村上 美子 先生
「豊かな心を育てる道徳教育の創造」
- ◇添田町立落合小学校 梶原 茂美 先生
「豊かな心を育てる道徳教育の創造」
- ◇添田町立落合小学校 相川 誠之 先生
「豊かな心を育てる道徳の時間の指導」
- ◇添田町立落合小学校 長原 美津子 先生
「豊かな心を育てる道徳教育の創造」
- ◇添田町立落合小学校 高橋 岳史 先生
「豊かな心を育てる道徳授業実践」
- ◇川崎町立川崎東小学校 藤川 和久 先生
「校務の効率化を図る校務の情報化」
- ◇川崎町立川崎東小学校 牟田 佳史 先生
「教職員の人権意識向上を図る研修のあり方」

研究発表会実施校の紹介

平成25・26年度 香春町教育委員会研究委嘱

香春町立中津原小学校

- 1 実施日 10月31日
- 2 主 題

読む力を育てる国語科学習指導の研究

～説明的文章において解釈しながら読む学習指導法の工夫～

3 研究の特色

国語科学習指導において、説明的文章を解釈しながら読むことのできる児童を育てるため、以下の2点から検証した。

① 読みの方法を明確にした学習活動の工夫

1) 着目する言葉、中心文、筆者の意図や考えを的確に読み取る方法を身につけさせる支援として、低学年、中学年、高学年における「自らの考えの形成に関する指導事項」「説明的な文章の解釈に関する指導事項」「主な教師の支援」を考案し実践した。

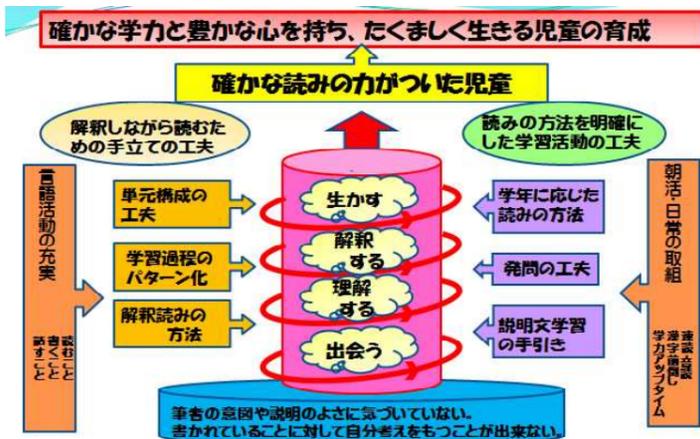
2) 説明的文章の手引き「要点」「文章の組み立て」「意味段落」「形式段落」「キーワード」を作成し、一人読みに役立たせた。

② 解釈しながら読むための手立ての工夫

1) 単元を「出会う段階」「理解する段階」「解釈する段階」「生かす段階」とし、それぞれの段階での子どもの姿および指導上の留意点を考案し、実施した。

2) 1単位時間を「つかむ」「ふかめる」「まとめる」という段階にして、それぞれの段階で、子どもの姿・活動および、教師の手立てをパターン化し、実践した。

3) 解釈読みの方法として「想像」「分析」「比較・対象」「推論」を位置づけ、それぞれの方法に対して子どもの具体的な思考を意味づけて実施した。



4 成果

- ・読むための手がかりとなる手法（主語・述語をとらえる、問いの文を見つける、事実と意見を区別する、文末表現で見つける等）を学ばせ、同じ手順で学習を進めることで、学習方法の定着を図ることができた
- ・文章構成を学習のはじめにつかむことで、全体を構造的に読み、筆者の論の進め方の工夫に気づくことができた。

研究発表会実施校の紹介

平成25・26・27年度 福岡県重点課題研究・委嘱事業

糸田町立糸田小学校・中学校「中間報告会」

- 【実施日】 平成26年11月6日（木）
- 【研究主題】

新たな不登校を生まない 魅力ある学校づくり

～小中9年間を通して子どもを育む「不登校未然防止プログラム」づくりを通して～

〈研究の特色〉

すべての児童生徒が来なくなる、安心して楽しく生活できる学校づくりのために、広島大学大学院 栗原慎二 教授が提唱する「マルチレベルアプローチ」の考え方を取り入れ、特に一次的支援、二次的支援にウエイトを置きながら、3つの視点【図1】で具体的支援について研究を推進している。

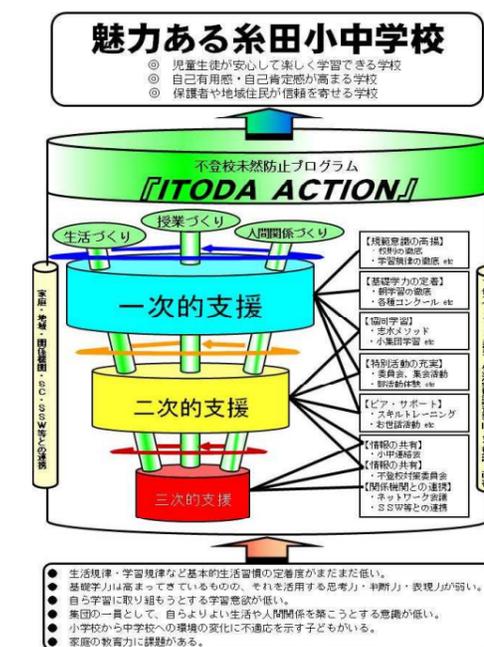
そして、各視点で研究された具体的支援内容を「小学校・中学校では、特に、どの段階に位置づけていくか」その関連を整理し、小中9年間を見通した支援プログラム「不登校未然防止プログラム」(Itoda Action)を作成してきている。【図2】

なお、現在の長期欠席児童生徒数（病気等の理由による欠席も含む）の推移は、【図3】のようになっている。

【図1】《研究の視点》

視点1 「自律・自立」をうながす生活づくり
◎ 学校・家庭の「ぶれない指導体制」づくり
◎ 規範意識の育成と基本的生活習慣の定着
視点2 確かな学力を育てる授業づくり
◎ 学習意欲の向上と基礎的学力の定着と活用
◎ 「わかる・できる」授業づくり
視点3 人間関係づくり
◎ 特別活動の充実
◎ 小中の接続の充実

【図2】《研究構想図》



【図3】《長期欠席児童生徒数の推移》

	小(人)	比率(%)	中(人)	比率(%)
H23年度	15	3.20	19	7.25
H24年度	9	2.01	22	8.70
H25年度	5	1.07	19	8.02

〈成果〉

- ① 生活リズムのアンケートで実態を的確に把握することにより、小中の取組に活かすことができた。また、小中共通した取組で、基本的生活習慣や規律ある態度が身についてきた。
- ② 小中それぞれが取り組む「わかる授業づくり」の方向性を確認することができた。また、「アセス」によって、学習の適応感が低い児童生徒を明確にし、早期に手立てをとることができた。
- ③ 小中合同の「あいさつ運動」を実施することで、中学生が自主的に挨拶をする姿を小学生に見せることができ、6年生はその姿に刺激を受け、自主的に参加したいという意欲が高まり、取り組むことができています。また、部活動体験を行ったことで、部活入部率が上がり、小学校では、お世話活動に取り組む6年生がよいモデルとなり、児童は落ち着いた学校生活を送っている。